

ぎふこくご

号外

岐阜県小中学校教育研究会 中学校国語科研究部会

発行 平成二十五年七月二十日



巻頭言

今年の県中国研に寄せる想い

岐阜県中学校国語科研究部会会長 小林 正徳

先日、七年ぶりに県中国研代

いしました。

議員会に出席しました。懐かしい方々の顔、変わらぬ事務局の先生方の熱意溢れる提案等、一瞬タイムスリップしたような感覚に襲われました。しかし、それもまさに一瞬で、改めて職責の重さに身の引き締まる思いがしました。今年度、河口前会長の後を受けて会長職を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いたします。

さて、第一回代議員会では、今年度の県中国研を進めるに当たって、次の二つのことをお願

いしました。一つは、「成果を一人でも多くの県内国語人に伝えていくこと」です。昨年までも、代議員の皆さんや事務局の広報部、情報部の皆さんのお骨折りで優れた実践の紹介に努めていただきました。なかでも、ここ数年かけて見直しが図られてきている『明日に生きる言語能力の具体化一覧表』は、県中国研が誇り得る実践であると思っています。また、昨年度から研究部が取り組んでいる『領域別言語活動一覧表』は、言語活動にやや振り

回され気味の昨今の国語教室に一石を投じるものであると確信しています。こうした県中国研の取組成果について、これまで以上に県内国語の先生方にお伝えし、それぞれの実態にに応じて実践していただけるようにしていきたいと思っています。

もう一つは、「来年度の可茂大会に向けて着実に前進すること」です。昨年度から可茂地区会長の井上校長先生、大会準備委員長の大野校長先生を中心に可茂大会の準備を進めていただいています。先般も、私を含めて三人で授業会場校の可児市中部中学校へ伺い、改めて校長先生にお願いしてきました。また、代議員会には、授業校の桑下先生に参加していただきました。

今年度は、大会前年度として、決意をもって進めていく必要があると思っています。その際、大切にしたいことは、「授業や実践発表を個人に任せるのでは

なく、地区や各研究部を代表した授業や発表にしていこうこと」です。そのためには、指導案検討も模擬授業も、可茂地区の担当郡市の皆さんが授業者や発表者を支えていただくとともに、各研究部が積極的にかかわっていくことが大切であると考えます。このことが、実践を広く伝えていくことにもつながり、また平成五年の全国大会岐阜大会以来、県中国研が営々と築いてきた財産であると考えています。県中国研の叡智を結集し、可茂大会に向けて着実な前進をよろしくお願いたします。

中国研のホームページ
「Webぎふこくご」

をぜひご覧ください。

<http://kokugo.chu.jp/>

ぎふこくご 検索

©代議員の先生方は、郡市の研究会の資料を
情報部あてお送りください。

岐阜県中国研会員の皆様へ

中学校国語科研究部会 主務 富田泰仁

今年の六月四日のことです。

サッカー日本代表がワールドカップ出場を決めた夜、渋谷のスクランブル交差点の交通の乱れを見事におさめた「DJポリス」の存在が話題になりました。私は「どうしてその人達がその交通の乱れを止めることができたのか」がとても気になっていたので調べてみました。そして分かったこと。彼らが使ったのは「言葉の力」だったのです。

私はこのことを生徒に伝えたくて、次のように授業でこのことを教材として扱い、話をしました。

課題「DJポリスの言葉はなぜ、人々の行動を変えたのか」
この授業を行う上で、こういうときに交通整理をするお巡りさんの言いそうなことを想像さ

せました。すると生徒はこう言いました。

- ・早く並んで！急いで！
- ・危ないから気をつけてください。
- ・勝手なことしない！
- ・言葉は分らないが、命令されるような口調、怒られているような口調なのではないか。

生徒のこれらの意見を聞いた後、私は生徒に「DJポリスの方々が実際に話した言葉」を紹介しました。

- ・ 私たちも心の中ではワールドカップ出場を喜んでいるのです。
- ・ 十二番目の選手であるサポーターの皆さん、日本代表はフェアプレーでも

有名なチームです。どうかみなさんもフェアプレーで今日のニュースを喜び合ってください。

・ ケガをしてしまったのは、日本のワールドカップ出場は後味の悪いものになってしまいます。ケガをしないことが第一です。ゆっくりと前に進んでください。

そして次のような質問をしました。

「これらの二種類の言葉は、伝えたいことは同じ事のはずなのに、どうしてあとの言葉で人は行動を変えたのだろうか。」

この発問に、生徒達は次のような意見を出しました。

- ・ 自分たちの気持ちや立場になってものを言っている感じがする。
- ・ お巡りさんも人間なんだなという感じがして、好

感がもてる。
・ 命令されている感じがしなくて、同じ目線で話してくれている感じがするので、指示を聞くのが楽な気がする。

伝えたいことは同じなのに「伝わり方」が違うのは「言葉の使い方」が違うから。もちろん命にも関わる状況で、注意したり時には叱ったりすることも必要であるけれど、この状況でお巡りさんの使った言葉に「相手の気持ちを考える」「相手の身になってる」という姿勢が見えたから、指示を聞いたのではないかと話しました。そしてこれは、私たちが日常生活でも役に立つヒントがみついているのではないかと。言い方一つで受け手の印象が変わる。言い換えれば「どんな言葉を使うことで、人に気持ちが伝わるか」ということでもあります。そのことに気づくこと

ができた時、言葉をより知ること、本を読むことの価値を実感することが出来ます。小説家や脚本家、作詞者は、そういうことを、私たちをはるかに超える想像で考え、言葉を紡いでいるのだと。

「国語の授業がつまらない」「何を勉強しているのか分からなくておもしろくない」という生徒にこそ教えてあげたい。「言葉は人の出会いと同じ。新たな人に会うと私たちが何かを得ることができると同じで、授業で新たな言葉に出会った時、その意味を知ること、使うことができるようになることで自分を変えるきっかけになるのだと。」

読み取りでも、文法でも、漢字でも、どんな言語活動でも「言葉との出会い」というスタンスで指導することができれば、教師は自信をもって生徒に話していけるのではないか。そんな気持ち忘れずに、授業をしてい

きたいと思えます。

可茂大会に向けて

平成二十五年度の中国研究主題は次の通りです。

明日に生きる言語

能力の育成

「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」

今年度はこの研究主題を軸に、各郡市の教科研で代議員の方々を中心に実践が行われています。どの郡市でもこの研究主題を礎として主題が設定されています。つまり岐阜県が同じ研究主題で、すべての先生方の力で研究が進められているのです。その研究の集大成として平成二十六年に「第二十一回岐阜県中学校国語科研究会可茂大会」が開催されます。来年度の当日の日時等については次の通りです。

期日 平成26年10月23日
または10月30日

流れ 12…30 受付
13…30 全体会
13…40 移動
14…00 公開授業
(4領域の授業)

14…50 移動

15…00 分科会

可茂地区の先生方から四名、各領域の部会から四名の実践発表及び授業研究会

16…20 全体指導

16…35 あいさつ

会場

全体会

可児市ゆとりピアホール

授業及び分会会

可児市立中部中学校

実践発表の地区

話すこと聞くこと 加茂郡

書くこと 可児郡

読むこと 可児市

言語文化 美濃加茂市

この大会を運営していくにあたり、広く県内の国語の先生方にはご協力を賜りたいと存じます。何とぞよろしくお願い致します。

また、今年度中国研では夏休みに二つの会を実施する予定です。一つは「若手教員対象の二学期の授業実践につながる国語授業研修会」。もう一つは「夏季ゼミ」です。詳細については次の通りです。

国語授業研修会について

日時

平成二十五年八月五日(月)

13…30～16…30

場所

大垣市立星和中学校

会の内容

・一学期の授業実践で明らかになった先生方の悩

みや質問に答える形で研修会を行う。

・先生方の各領域の実践について研究部の部長や部員が相談に乗る。

・二学期以降の教科書教材等の教科研究や授業に対する研修を行う。

参加を申し込まれる場合は、星和中学校の富田にご連絡をいただくか、各学校に届いているFAX用紙に必要事項を記入していただいて星和中学校までお送りください。締め切り日を七月十九日としたいと思います。

申し込み及び問い合わせ
大垣市立星和中学校

富田泰仁

電話

(0584) 7512660

FAX

(0584) 7512650

夏季ゼミについて

日時

平成二十五年八月二十日(火)

10:00～13:00

場所

みのかも文化の森

内容

9:30～9:50受付

10:00～講演会

11:30～可茂大会に向

けての確認事項

12:00～昼食

13:10～14:30

可茂大会の授業構想検討

講演会は、日本教育大学院大

学学校教育研究科研究科長及び

教授の花田修一先生、演題は「確

かな国語の力を付ける言語活動

の工夫」です。申し込みについ

ては各学校にメールで届いてい

る事と思いますので、その申し

込みを通じてお願い致します。

また、午前中の講演会の参加のみでも結構です。気軽に参加してください。

最後に

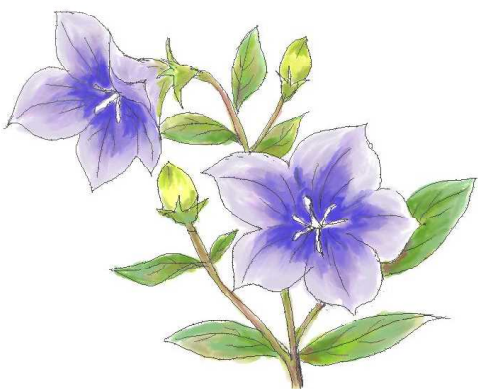
日々の授業実践の中で「どうしたら生徒一人一人に力を付けることができるのか」「どうしたら生徒一人一人が楽しく国語を学ぶことができるのか」といった悩みは尽きません。しかし、国語という教科の特性を考えたとき「このようにすればうまくいく」というのが難しいのも事実ではないでしょうか。

発問の仕方や板書の仕方一つとってみても「このようにすれば分かりやすい」といった方法は千差万別です。だからこそ、様々な方法を交流し、試してみ、自分の授業づくりに役立てていくことが大切だと考えます。

冒頭に示した例も、新聞のニュ

ースを教材化したことで成立したものであり、それがまた教科書教材を学習するときに役に立てばと考えました。

各郡市の教科研や中国研の研修会において、このようなやりとりがたくさんなされたり、県内に広まっていったりすることを願っています。そのことに中国研が少しでもお役に立てればと思います。



岐阜県中国研究会員の皆様へ

研究総括 山口 政有

【平成二十五年度中国研 研究主題】

明日に生きる言語能力の育成

「言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して」

一 平成二十四年度の成果と課題

○各部会で授業研を行い、各
部員や代議員と連携して研
究を進めることができた。

○研究部と代議員の先生方と
の連携をできるだけたくさ
んとすることで、組織として
研究を進めていくことがで
きた。

○夏季ゼミを今年度も行うこ
とができた。

●各領域の各単元において、
ねらいを明確にするための
付きたい力の洗い出しと、
言語活動の工夫について、
各部会で実践をまとめてい
くことができなかった。

これらの成果と課題を受けて、
可茂大会へ向けての、研究の方向
を次のように明らかにしました。

二 今年度の研究主題

国語において「明日に生きる
言語能力」を育成することが、
生徒の生きる力をはぐくむこと
につながると思われました。言語
能力を伸ばす言語能力を充実さ
せることで、生徒は国語に対す
る認識を深め、国語を尊重する
態度を育むことができるのです。
そこで言語能力を「三領域」と
「伝統的な言語文化と国語の特
質に関する事項」に関わって、
こんな力であると思われました。

話す・聞く
↓目的や場面に応じて話す
力・聞く力・話し合う力
書く
↓相手や目的に応じて的確
に書く力

読む

↓主体的かつ的確に読む力
言語文化
↓言語文化に親しみ、豊か
に運用する力

そこで次のような仮説を立て
ました。

三年間の付きたい言語能力
を明確にし、高まりが実感で
きる言語活動の充実を図って
いけば、明日に生きる言語能
力を育成することができる。

前述の主題によって、各部の
研究主題が「明日に生きる言語
能力」の具体となり、つながっ
ていくようになりました。それ
ぞれの部会が「明日に生きる言
語能力」として捉えている力を、
言語活動の充実を通して掘り下
げているので研究が成り立つと
いう考えです。この研究テーマ
を基に、平成二十五年度も引き
続き、各郡市の研究テーマを決
定してもらっています。
具体的な研究内容としては、

次のように考えて研究を実践し
ます。

【指導計画の工夫について】

①「明日に生きる言語能力」
の具体化一覧表を位置付け
た年間（単元）指導計画の
作成

②中学校三年間で身に付けさ
せたい言語能力を網羅した
「明日に生きる言語能力」
の具体化一覧表の改訂

【指導方法の工夫について】

①領域ごとに「明日に生きる
言語能力」を意識した付け
たい力の一覧表と言語活動
の工夫

②岐阜県ならではの地域教材
・新しい単元の指導の開発
③指導方法の明確な指導案の
書き方の提案

三 今年度の具体的な取り組み

【指導計画の工夫①について】
新学習指導要領に基づいた年
間指導計画が各校で作成され、
昨年度の指導が行われたと思

ます。

研究部として可茂大会では、どの学校でも活用できるよう、研究部の実践を活用して年間指導計画を作成し、県内に広めていけるようにしたいと考えています。

↓平成二十五年度は、各領域二単元ほどを目安に、中国研での研究を元にした単元指導計画を作成する。

【指導計画の工夫②について】

研究部ではこれまでの実践で「明日に生きる言語能力の具体化一覧表」を作成してきました。

新学習指導要領に合わせ、言語活動の種類や系統性を網羅して一覧表を作成していきたいと考えています。

※各領域の各単元において、付けたい力を明確にする。

【指導方法の工夫①について】

研究部には四つの部会があり、その部会がそれぞれ研究テーマを設定し、授業研等を行いながら実践を積み重ねています。新学習指導要領に中学校三年間で各領域で

例としてあげられている言語活動例（話すこと・聞くこと六つ、書くこと八つ、読むこと九つ、言語五つ）を基に、言語活動の開発や工夫を実践として積み重ねていけるよう、まとめることができるようにしていきます。

※明らかにした付けたい力を付けるため、単元を通した言語活動を位置付けて実践を行う。また、その言語活動を一覧表にまとめる。

【指導方法の工夫②について】

東濃大会の授業では地域教材を活用した授業展開が行われました。古典教材などで、その地域で詠まれた和歌や俳句を生徒が学ぶ姿は大変すばらしく、言語活動の工夫につながるものでした。

今回の可茂大会に向けて、研究部としても地域教材の開発を行い、岐阜県の国語の財産として積み重ねていきたいと考えています。各郡市の市教研でも、その郡市ならではの教材開発を行い、それを授業に生かしていけるような

実践がありましたら、ぜひご提案いただきたいです。

【指導方法の工夫③について】

東濃大会では「岐阜県の国語科指導案の一つのモデル」として指導案の形式を統一して提案しました。各郡市の研究授業の指導案を見ても、それぞれ形式は統一されていません。経験年数の浅い先生や指導案の書き方で困っている先生方の声をよく聞きます。そこで東濃大会の指導案の形式の一つのモデルとしながら、可茂大会に向けて「分かりやすい指導案」を

テーマに、岐阜県の国語科の指導案のモデルを作成し、提案していきたいと考えています。

四 その他

本年度は、八月に夏季ゼミを開催し、可茂大会における授業の第一次検討をしていきます。その際、各領域の研究部員の実践を元に、「研究授業に向けて、考えていかなくはないこと」「今後の実践の中で取り組んでいきたいこと」などを明確にしていきたいと願っています。

県中国研夏季ゼミナールについて

日時：八月二十日（火）午前十時～午後二時半

（講演会は、午前十時～午前十一時半）

場所：みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム

美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3290-1 tel: 0574-28-1110

内容：講演会（花田修一先生）と可茂大会に向けての準備委員会

日程：午前十時～ 講演会スタート

午前十一時半～ 可茂大会へ向けての確認事項

午後一時～ 各部会に分かれて授業についての検討会

午後二時半 会終了予定

※申込は、各郡市の代議員の先生、又は、中国研総務 岐阜市立藍川中学校（058-241-6477）曾我部雄志までお申し込みください。

平成二十五年 度 県中国研本部役員・研究部員名簿

【本部役員】

| | | |
|-----------|-------|---------------|
| 会長 | 小林 正徳 | 岐阜市立加納中学校 |
| 副会長（岐阜） | 長村 覚 | 本巣市立真正中学校 |
| 副会長（西濃） | 佐野 恵子 | 海津市立平田中学校 |
| 副会長（美濃） | 五十川法弘 | 関市立富野中学校 |
| 副会長（可茂） | 井上 光彦 | 美濃加茂市富加町 |
| 副会長（東濃） | 谷口 千鶴 | 中学校組合立双葉中学校 |
| 副会長（飛驒） | 山本 茂 | 多治見市立南ヶ丘中学校 |
| 可茂大会準備委員長 | 大野 裕司 | 高山市立宮中学校 |
| 評議員 | 永田 千尋 | 美濃加茂市立西中学校 |
| 会計監査 | 藤根 隆 | 岐阜市立藍川北中学校 |
| 会計監査 | 遠山 健二 | 関市立緑ヶ丘中学校 |
| | | 岐阜大学教育学部附属中学校 |

【事務局】

| | | |
|-------|-------|---------------|
| 主務 | 富田 泰仁 | 大垣市立星和中学校 |
| 〃 補佐 | 永井 伸幸 | 郡上市立大和中学校 |
| 会計 部長 | 今井 則雄 | 岐阜市立青山中学校 |
| 総務 部長 | 曾我部雄志 | 岐阜市立藍川北中学校 |
| 副部長 | 長谷川圭奈 | 岐阜市立境川中学校 |
| 広報 部長 | 松永健一郎 | 岐阜市立境川中学校 |
| | 小島光太郎 | 岐阜大学教育学部附属中学校 |
| | 宮川 浩司 | 岐阜大学教育学部附属中学校 |
| 情報 部長 | 岸 浩道 | 笠松町立笠松中学校 |
| 編集 部長 | 西門 純 | 岐阜市立梅林中学校 |
| | 水野 寛大 | 岐阜市立加納中学校 |
| | 加藤 尚子 | 岐阜市立加納中学校 |

【研究部】

| | | |
|--------|-------|----------------|
| 研究 総括 | 山口 政有 | 瑞浪市立瑞陵中学校 |
| 〃 副総括 | 細江 隆一 | 美濃加茂市立美濃加茂西中学校 |
| 〃 副総括 | 富山 哲成 | 岐阜市立長良中学校 |
| 話す聞く部長 | 塚本 陽治 | 岐阜市立陽南中学校 |
| 書く部長 | 今井 則雄 | 岐阜市立青山中学校 |
| 読む部長 | 上村 光一 | 岐阜市立東長良中学校 |
| 言語文化部長 | 内田 誠司 | 本巣市立真正中学校 |



話す聞く部員

【岐阜地区】 篠田陽子（陽南中） 渡邊孝充（長良中）

野島将也（長良中） 大平朋美（蘇原中）

【可茂地区】 間宮純子（坂祝中） 堀田佳代（坂祝中）

森四十巳（川辺中） 橋本奈美（川辺中）

安藤理恵（川辺中） 廣瀬賢人（上麻生中）

田口広志（神渕中） 木下静樹（八百津中）

嶋崎博一（八百津中） 可児愛由未（八百津中）

今瀬咲恵（八百津東部中） 村井琴美（白川中）

森菜々子（白川中） 渥美僚之（黒川中）

上野謹靖（佐見中） 金子紀之（東白川中）

【東濃地区】 加納玲子（西陵中） 杉山貴紀（西陵中）

梶屋明広（中津川第一中） 片山博寿（瑞陵中）

【飛騨地区】 荒井貴行（日枝中）

書くこと部員

【岐阜地区】 高井梨絵（各務原中央中） 水野寛大（加納中）

【美濃地区】 竹智丈裕（小金田中）

【東濃地区】 熊崎裕子（泉中）

【飛騨地区】 高橋友之（日枝中）

【可茂地区】 細江隆一（美濃加茂西中）

読むこと部員

【岐阜地区】 辻 美里（東長良中） 小宅陽久（東長良中）

平野栄子（島中） 酒向由美子（陽南中）

森永玲央（陽南中） 加藤尚子（加納中）

清水裕樹（青山中） 木下慎一郎（羽島市中央中）

【西濃地区】 河野純子（大垣市北中）

【可茂地区】 山口明美（向陽中）

【飛騨地区】 中島英人（古川中）

言語文化部員

【岐阜地区】 一川宗弘（青山中） 深尾寛（藍川中）

吉永康昭（東長良中） 茅壁ちひろ（岐北中）

【東濃地区】 伊藤 瞳（南ヶ丘中）

【飛騨地区】 熊崎智文（下呂中）

【西濃地区】 杉尾大輔（神戸中）

【可茂地区】 森高鉦介（美濃加茂東中）

